

第 1 4 章 水産

第 1	教科目標，評価の観点及びその趣旨	水 - 1
第 2	各科目の評価の観点の趣旨	水 - 1
第 3	原則履修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例	水 - 3
	水産基礎	水 - 3
第 4	単元の評価に関する事例	水 - 7
	水産基礎	水 - 7

第 1 4 章 水産

第 1 教科目標，評価の観点及びその趣旨

1 教科目標

水産や海洋の各分野における生産や流通、環境などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、水産業及び海洋関連産業の意義や役割を理解させるとともに、それらの諸課題を主体的、合理的に解決し、それらの産業の充実と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

2 評価の観点及び趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
水産や海洋に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的、実践的な態度を身に付けている。	水産や海洋に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	水産や海洋の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。	水産や海洋の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、水産業や海洋関連産業の意義や役割を理解している。

第 2 各科目の評価の観点の趣旨

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
水産基礎	水産や海洋に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して基礎的な知識と技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	水産や海洋に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	水産や海洋に関する基礎的な技術を身に付け、調査・研究などの実践をするとともに、その成果を的確に表現する。	水産や海洋に関する基礎的な知識を身に付け、水産業や海洋関連産業が国民生活に果たしている役割を理解している。
漁業	漁業に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して知識と技術の習得に意欲的に取り組むとともに、漁業の生産性の向上を図る創造的、実践的な態度を身に付けている。	漁業に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	漁業に関する技術を身に付け、漁業の生産性の向上を図るとともに、その成果を的確に表現する。	漁業に関する知識を身に付け、漁業の生産性の向上を図る意義や役割を理解している。
船用機関	船舶の機関及びその運転と保安に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して知識と技術の習得に意欲的に取り組むとともに、船舶を安全かつ効率的に運航、管理する創造的、	船舶の機関及びその運転と保安に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	船舶の機関及びその運転と保安に関する技術を身に付け、船舶を安全かつ効率的に運航、管理するとともに、その成果を的確に表現する。	船舶の機関及びその運転と保安に関する知識を身に付け、船舶を安全かつ効率的に運航、管理する意義や役割を理解している。

	実践的な態度を身に付けている。			
通信工学	通信工学及び情報通信に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して知識と技術の習得に意欲的に取り組むとともに、電子機器の取扱いや通信業務に活用する創造的、実践的な態度を身に付けている。	通信工学及び情報通信に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	通信工学及び情報通信に関する技術を身に付け、電子機器の取扱いや通信業務に活用するとともに、その成果を的確に表現する。	通信工学及び情報通信に関する知識を身に付け、電子機器の取扱いや通信業務に活用する意義や役割を理解している。
栽培漁業	水産増養殖に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して知識と技術の習得に意欲的に取り組むとともに、栽培漁業の生産性の向上を図る創造的、実践的な態度を身に付けている。	水産増養殖に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	水産増養殖に関する技術を身に付け、栽培漁業の生産性の向上を図るとともに、その成果を的確に表現する。	水産増養殖に関する知識を身に付け、栽培漁業の生産性の向上を図る意義や役割を理解している。
水産食品製造	水産食品の製造に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して知識と技術の習得に意欲的に取り組むとともに、水産食品を合理的に製造する創造的、実践的な態度を身に付けている。	水産食品の製造に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	水産食品の製造に関する技術を身に付け、水産食品を合理的に製造するとともに、その成果を的確に表現する。	水産食品の製造に関する知識を身に付け、水産食品を合理的に製造する意義や役割を理解している。

第3 原則履修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

水産基礎

1 目標

水産や海洋に関する基礎的な知識と技術を習得させるとともに、水産業や海洋関連産業が国民生活に果たしている役割を理解させる。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
水産や海洋に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して基礎的な知識と技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	水産や海洋に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	水産や海洋に関する基礎的な技術を身に付け、調査・研究などの実践をするとともに、その成果を的確に表現する。	水産や海洋に関する基礎的な知識を身に付け、水産業や海洋関連産業が国民生活に果たしている役割を理解している。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

水産基礎においては、学習指導要領の内容の(1)や(2)などの大項目を内容のまとめりとして、これらごとに評価規準を作成した。

(1) 「海のあらまし」

【学習指導要領の内容】

ア 海と生活

イ 海と生物

ウ 海の環境と保全

【「海のあらまし」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
海と人間とのかかわり、水産資源及び海洋環境の保全と管理等に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して基礎的な知識と技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	海と人間とのかかわり、水産資源及び海洋環境の保全と管理等に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	海と人間とのかかわり、水産資源及び海洋環境の保全と管理等に関する基礎的な技術を身に付け、調査・研究などの実践をするとともに、その成果を的確に表現する。	海と人間とのかかわり、水産資源及び海洋環境の保全と管理等に関する基礎的な知識を身に付け、それらが国民生活に果たしている役割を理解している。

【「海のあらまし」の評価規準の具体例】

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ア 海と生活	海と人間とのかかわりについて関心を持ち、海が人間の生活に及ぼす影響や役割について、その基礎的な知識を意欲的に習得しようとしている。	海と人間とのかかわりについて思考を深め、自らの疑問や与えられた課題などを、適切に判断し、創意工夫することにより、答えを導き出すことができる。	海と人間とのかかわりに関する調査・研究などの実践活動のまとめや発表を、的確に表現することができる。	海と人間とのかかわりに関する基礎的な知識を身に付け、それらが国民生活に果たしている役割を理解している。
イ 海と生物	海や海の生物の特性について関心を持ち、海洋観測、操艇、磯採集、生物の飼育・観察など	海や海の生物の特性について思考を深め、自らの疑問や与えられた課題などを、適切に判	海や海の生物の特性に関する海洋観測、操艇、磯採集、生物の飼育・観察などの基礎的な技	海や海の生物の特性に関する基礎的な知識を身に付け、それらが国民生活に果たしている

生物	の体験的な学習を通して、その基礎的な知識と技術を意欲的に習得しようとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。	断し、創意工夫することにより、答えを導き出すことができる。	術を習得するとともに、調査・研究などの実践活動のまとめや発表を、的確に表現することができる。	役割を理解している。
ウ 海 の 環 境 と 保 全	海的环境と保全について関心をもち、水質調査、海浜清掃、ダイビングなどの体験的な学習を通して、その基礎的な知識と技術を意欲的に習得しようとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。	海的环境と保全について思考を深め、自らの疑問や与えられた課題などを適切に判断し、創意工夫することにより、答えを導き出すことができる。	海的环境と保全に関する水質調査、海浜清掃、ダイビングなどの基礎的な技術を習得するとともに、調査・研究などの実践活動のまとめや発表を、的確に表現することができる。	海的环境と保全に関する基礎的な知識を身に付け、それらが国民生活に果たしている役割を理解している。

(2) 「水産業と海洋関連産業のあらまし」

【学習指導要領の内容】

- ア 食生活と水産物
- イ とる漁業、つくる漁業と資源管理
- ウ 水産物の加工と流通
- エ 海洋関連産業

【「水産業と海洋関連産業のあらまし」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
水産業や海洋関連産業に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して基礎的な知識と技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	水産業や海洋関連産業に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	水産業や海洋関連産業に関する基礎的な技術を身に付け、調査・研究などの実践をするとともに、その成果を的確に表現する。	水産業や海洋関連産業に関する基礎的な知識を身に付け、それらが国民生活に果たしている役割を理解している。

【「水産業と海洋関連産業のあらまし」の評価規準の具体例】

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ア 食 生 活 と 水 産 物	日本人の食生活と水産物について関心をもち、食生活において水産物が果たす役割や栄養、成分価値などについて、その基礎的な知識を意欲的に習得しようとしている。	日本人の食生活と水産物について思考を深め、自らの疑問や与えられた課題などを、適切に判断し、創意工夫することにより、答えを導き出すことができる。	日本人の食生活と水産物に関する調査・研究などの実践活動のまとめや発表を、的確に表現することができる。	日本人の食生活と水産物に関する基礎的な知識を身に付け、それらが国民生活に果たしている役割を理解している。
イ と る 業 と 漁 業 資 源	とる漁業、つくる漁業と資源管理について関心をもち、地域の漁業や栽培漁業の調査・見学などを通して、その基礎的な知識と技術を意欲的に習得しようとする。	とる漁業、つくる漁業と資源管理について思考を深め、自らの疑問や与えられた課題などを、適切に判断し、創意工夫することにより、答えを導き出すこ	とる漁業、つくる漁業と資源管理に関する基礎的な技術を習得するとともに、調査・研究などの実践活動のまとめや発表を、的確に表現することができる。	とる漁業、つくる漁業と資源管理に関する基礎的な知識を身に付け、それらが国民生活に果たしている役割を理解している。

つ管 く理 る	するとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。	とができる。		
ウ 水と 産流 物通 の加 工	水産物の加工と流通について関心をもち、水産物の製造や流通に係る施設の見学や就業体験などを通して、その基礎的な知識と技術を意欲的に習得しようとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。	水産物の加工と流通について思考を深め、自らの疑問や与えられた課題などを、適切に判断し、創意工夫することにより、答えを導き出すことができる。	水産物の加工と流通に関する基礎的な技術を習得するとともに、調査・研究などの実践活動のまとめや発表を、的確に表現することができる。	水産物の加工と流通に関する基礎的な知識を身に付け、それらが国民生活に果たしている役割を理解している。
エ 海 洋 関 連 産 業	海洋関連産業について関心をもち、海洋開発、水産物以外の海洋資源、海洋性レクリエーションなどについて、その基礎的な知識を意欲的に習得しようとしている。	海洋関連産業について思考を深め、自らの疑問や与えられた課題などを、適切に判断し、創意工夫することにより、答えを導き出すことができる。	海洋関連産業に関する調査・研究などの実践活動のまとめや発表を、的確に表現することができる。	海洋関連産業に関する基礎的な知識を身に付け、それらが国民生活に果たしている役割を理解している。

(3) 「船のあらまし」

【学習指導要領の内容】

ア 船の種類と役割

イ 船の運航

【「船のあらまし」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
船の沿革、船の種類と役割、船の運航、機関の操作等に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して基礎的な知識と技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	船の沿革、船の種類と役割、船の運航、機関の操作等に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	船の沿革、船の種類と役割、船の運航、機関の操作等に関する基礎的な技術を身に付け、調査・研究などの実践をするとともに、その成果を的確に表現する。	船の沿革、船の種類と役割、船の運航、機関の操作等に関する基礎的な知識を身に付け、それらが国民生活に果たしている役割を理解している。

【「船のあらまし」の評価規準の具体例】

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ア 船 の 種 類 と 役 割	船の沿革、船の種類と役割などについて関心をもち、実習船や地域の漁船などを通して、その基礎的な知識を意欲的に習得しようとしている。	船の沿革、船の種類と役割などについて思考を深め、自らの疑問や与えられた課題などを、適切に判断し、創意工夫することにより、答えを導き出すことができる。	船の沿革、船の種類と役割などに関する調査・研究などの実践活動のまとめや発表を、的確に表現することができる。	船の沿革、船の種類と役割などに関する基礎的な知識を身に付け、それらが国民生活に果たしている役割を理解している。
イ 船	船の運航、機関の操作などについて関心をもち、操船や機関の運転、	船の運航、機関の操作などについて思考を深め、自らの疑問や与え	船の運航、機関の操作などに関する基礎的な技術を習得するととも	船の運航、機関の操作などに関する基礎的な知識を身に付け、それ

の 運 航	保守整備などについて、その基礎的な知識と技術を意欲的に習得しようとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。	られた課題などを、適切に判断し、創意工夫することにより、答えを導き出すことができる。	に、調査・研究などの実践活動のまとめや発表を、的確に表現することができる。	らが国民生活に果たしている役割を理解している。
-------------	---	--	---------------------------------------	-------------------------

(4) 「基礎実習」

【学習指導要領の内容】

ア 共通実習（操艇，結索，各種泳法，遠泳，体験乗船）

イ 課題実習

【「基礎実習」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
操艇，結索，各種泳法，遠泳及び体験乗船に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して基礎的な知識と技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	操艇，結索，各種泳法，遠泳及び体験乗船に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	操艇，結索，各種泳法，遠泳及び体験乗船に関する基礎的な技術を身に付け、調査・研究などの実践をするとともに、その成果を的確に表現する。	操艇，結索，各種泳法，遠泳及び体験乗船に関する基礎的な知識を身に付け、それらの役割を理解している。

【「基礎実習」の評価規準の具体例】

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
操艇・体験乗船	操艇や体験乗船について関心をもち、舟艇の操艇や運航，体験乗船を通して、その基礎的な知識と技術を意欲的に習得しようとするともに、実践的な態度を身に付けようとしている。	操艇や体験乗船について思考を深め、自らの疑問や与えられた課題などを適切に判断し、創意工夫することにより、答えを導き出すことができる。	操艇や体験乗船に関する基礎的な技術を習得するとともに、調査・研究などの実践活動のまとめや発表を、的確に表現することができる。	操艇や体験乗船に関する基礎的な知識を身に付け、それらの役割を理解している。
結索	結索について関心をもち、各種の結索について、その基礎的な知識と技術を意欲的に習得しようとするともに、実践的な態度を身に付けようとしている。	結索について思考を深め、自らの疑問や与えられた課題などを適切に判断し、創意工夫することにより、答えを導き出すことができる。	結索に関する基礎的な技術を習得するとともに、調査・研究などの実践活動のまとめや発表を、的確に表現することができる。	結索に関する基礎的な知識を身に付け、それらの役割を理解している。
各種泳法・遠泳	各種泳法や遠泳について関心をもち、海上において身体を安全に処する能力について、その基礎的な知識と技術を意欲的に習得しようとするともに、実践的な態度を身に付けようとしている。	各種泳法や遠泳について思考を深め、自らの疑問や与えられた課題などを適切に判断し、創意工夫することにより、答えを導き出すことができる。	各種泳法や遠泳に関する基礎的な技術を習得するとともに、調査・研究などの実践活動のまとめや発表を、的確に表現することができる。	各種泳法や遠泳に関する基礎的な知識を身に付け、それらの役割を理解している。

第4 単元の評価に関する事例

水産基礎

ここでは、教科水産の共通基礎科目としての性格をもち、水産に関する各学科において、原則としてすべての生徒に履修させる科目である「水産基礎」において、指導と評価の工夫を行った事例を紹介する。

単元名 「海と生活」(7時間)

1 単元の目標

- (1) 海と人間とのかかわりについて関心をもち、海が人間の生活に及ぼす影響や役割について、その基礎的な知識を意欲的に習得しようとする態度を養う。
- (2) 海と人間とのかかわりについて思考を深め、自らの疑問や与えられた課題などを、適切に判断し、創意工夫することにより、答えを導き出させる。
- (3) 水産業を中心に、海の探究の歴史や新しい海の利用方法、日本の魚食文化や精神文化に関する調査・研究などの実践活動のまとめや発表を、的確に表現させる。
- (4) 水産業を中心に、海の探究の歴史や新しい海の利用方法、日本の魚食文化や精神文化に関する基礎的な知識を身に付け、それらが国民生活に果たしている役割を理解させる。

2 単元の評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 技能・表現	エ 知識・理解
内評 容価 の規 ま準 と ま り ご と の	海と人間とのかかわり、水産資源及び海洋環境の保全と管理等に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して基礎的な知識と技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	海と人間とのかかわり、水産資源及び海洋環境の保全と管理等に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	海と人間とのかかわり、水産資源及び海洋環境の保全と管理等に関する基礎的な技術を身に付け、調査・研究などの実践をするとともに、その成果を的確に表現する。	海と人間とのかかわり、水産資源及び海洋環境の保全と管理等に関する基礎的な知識を身に付け、それらが国民生活に果たしている役割を理解している。
単 元 の 評 価 規 準	海と人間とのかかわりについて関心をもち、海が人間の生活に及ぼす影響や役割について、その基礎的な知識を意欲的に習得しようとしている。	海と人間とのかかわりについて思考を深め、自らの疑問や与えられた課題などを、適切に判断し、創意工夫することにより、答えを導き出すことができる。	海と人間とのかかわりに関する調査・研究などの実践活動のまとめや発表を、的確に表現することができる。	海と人間とのかかわりに関する基礎的な知識を身に付け、それらが国民生活に果たしている役割を理解している。
学 習 活 動 に お け る 具 体 の 評 価 規 準	水産業を中心に、海の探究の歴史や新しい海の利用方法について関心をもち、意欲的に知ろうとしたり、海が人間の生活に及ぼす影響や役割について考えようとしている。 日本の魚食文化や精神文化について関心をもち、意欲的に知ろうとしたり、海が国民生活に果たしている役割について考えようとしている。	水産業を中心に、海の探究の歴史や新しい海の利用方法について考え、自らの疑問や与えられた課題などを、適切に判断し、創意工夫することにより、答えを導き出すことができる。 日本の魚食文化や精神文化について考え、自らの疑問や与えられた課題などを、適切に判断し、創意工夫することにより、答えを導き出すことができる。	水産業を中心に、海の探究の歴史や新しい海の利用方法及び日本の魚食文化や精神文化に関する調査・研究などの実践活動のまとめや発表を、的確に表現することができる。	水産業を中心に、海の探究の歴史や新しい海の利用方法に関する基礎的な知識を身に付け、海が人間の生活に及ぼす影響や役割を理解している。 日本の魚食文化や精神文化に関する基礎的な知識を身に付け、海が国民生活に果たしている役割を理解している。

3 指導と評価の計画

時間	ねらいと学習活動	学習活動における 具体的評価規 準との関連	評価方法等
1	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科水産の基礎科目としての位置付けや「海,水産物,船」を主な素材とした科目であることを認識させ,水産や海洋への興味や関心を引き出し,学習意欲を高める。 <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「水産」という用語からそのイメージをワークシートに記入し,発表し合う。 ・海,水産物,船が深くかかわっていることを知り,水産や海洋への興味や関心を高める。 	アの ,	ワークシート (参考資料1)
2	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間と海とのかかわりの歴史で,水産業が最も密接なかかわりを持ってきたことを認識させ,水産業の発展の歴史を理解させ,これからの水産業について考えさせる。 <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問により,人間が水産業を通して海と最も密接にかかわってきたことを理解する。 ・古代からの水産業の発展と現代の水産業が抱える課題について考える。 	アの	教師による観察
3	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の知的好奇心が海への探究と密接なかかわりを持ってきたことを認識させ,海の探究の歴史を理解させ,これからの海の研究について考えさせる。 <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らの海とのかかわりを通して,海に対する興味や関心を持つ。 ・古代からの海の探究の歴史と現代の海の研究が抱える課題について考える。 	イの ウの エの	質疑応答 ワークシート (参考資料1) ペーパーテスト (単元の最終時間に実施)
4	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産業以外の海の利用方法があることを認識させ,新しい海の利用方法について考えさせ,海の大切さを理解させる。 <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産業以外の海の利用方法について考える。 ・海の大切さを理解する。 		
5	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な食生活から水産物の重要性を認識させ,日本の魚食文化の形成に海や水産物が密接にかかわってきたことを理解させる。 <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な食生活から,水産物が日本人の豊かな食生活を支えていることを理解する。 ・日本の魚食文化が海と深くかかわってきたことを理解する。 	アの イの ウの	教師による観察 レポート (参考資料2) レポート (参考資料2)
6	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な習俗や祭り事から海や水産物の重要性を認識させ,日本の精神文化の形成に海が密接にかかわってきたことを理解させる。 <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な習俗や祭り事について事前に調査し,発表し合う。 ・日本の精神文化が海と深くかかわってきたことを理解する。 	エの	ペーパーテスト (単元の最終時間に実施)
7	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本単元の学習を通して,海が人間の生活に及ぼす影響や役割について理解を深めさせる。 <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストにより知識や理解を深める。 	アの , エの ,	まとめシート (参考資料3) ペーパーテスト

・まとめシートにより自らの授業への取組状況を省みる。

4 観点別評価の進め方

評価を進める上での留意すべきこととして、学習活動における具体的評価規準に挙げた7項目の評価規準について、毎時間の学習内容等に応じて選択し、単元終了までにバランスよく評価する。教師による観察評価のほか、ワークシートやレポート、質疑応答などを活用し、指導と評価がゆとりを持って実施できるようにする。学習活動における具体的評価規準は「おおむね満足できると判断される」状況(B)を示している。指導の過程で絶えず生徒の活動や学習状況を観察・評価しながら、その学習過程で、実現状況が「努力を要すると判断される」状況(C)にある生徒に対しては、生徒が希望や意欲をもって学習をし、評価が「B」以上になるように、可能な限りアドバイスしたり、課外学習をさせたり、進歩を見出し励ましたりするなど、個別指導の手だてを講じていくことが重要である。

本科目は、教科水産の共通基礎科目であり、基礎・基本を確実に習得できるよう指導と評価の一体化を図っていくことが大切である。指導と評価の一体化を進める上で、学習活動における具体的評価規準に照らして、「十分満足できると判断される」状況(A)及び「努力を要すると判断される」状況(C)の例を以下にまとめた。

	学習活動における具体的評価規準	「十分満足できると判断される」状況(A)と評価される具体例	「努力を要すると判断される」状況(C)と評価される生徒への指導の手だて
ア 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	水産業を中心に、海の探究の歴史や新しい海の利用方法について関心をもち、意欲的に知ろうとしたり、海が人間の生活に及ぼす影響や役割について考えようとしている。 日本の魚食文化や精神文化について関心をもち、意欲的に知ろうとしたり、海が国民生活に果たしている役割について考えようとしている。	教師の説明や生徒の発表から、水産業や海の探究の歴史を漁法の変遷や探検家の名前とともに理解しようとしたり、海が人間の生活に及ぼす影響や役割を自らの生活から見つけ出し、自ら解決しようとしている。 教師の説明や生徒の発表から、日本の魚食文化と精神文化を魚料理や海の信仰とともに理解しようとしたり、海が国民生活に果たしている役割を自らの生活から見つけ出し、自ら解決しようとしている。	水産や海からイメージする具体例を挙げさせ、その中で自分が最も関心のある事柄を見つけ出し、気付かせるとともに、授業の取組みについてアドバイスする。 身近な生活から水産食品や祭り事の具体例を挙げさせ、その中で自分が最も関心のある事柄を見つけ出し、気付かせるとともに、授業の取組についてアドバイスする。
イ 思 考 ・ 判 断	水産業を中心に、海の探究の歴史や新しい海の利用方法について考え、自らの疑問や与えられた課題などを、適切に判断し、創意工夫することにより、答えを導き出すことができる。 日本の魚食文化や精神文化について考え、自らの疑問や与えられた課題などを、適切に判断し、創意工夫することにより、答えを導き出すことができる。	歴史的事実から、水産業や海の探究の歴史を考え、新しい海の利用方法について適切に判断し、創意工夫することにより答えを導き出すことができる。 日本がおかれた地理的環境から、日本の魚食文化や精神文化を考え、日本の文化の継承について適切に判断し、創意工夫することにより答えを導き出すことができる。	質疑応答の内容から、思考・判断の不十分な点について説明し、課題についての考え方や判断の組み立て方についてアドバイスする。 レポートの記述内容から思考・判断の不十分な点について説明し、課題についての考え方や判断の組み立て方についてアドバイスする。
ウ 技 能 ・ 表 現	水産業を中心に、海の探究の歴史や新しい海の利用方法及び日本の魚食文化や精神文化に関する調査・研究などの実践活動のまとめや発表を、的確に表現することができる。	「水産」という用語のイメージから、水産業と海、水産物、船とのかかわり及び日本の魚食文化や精神文化と食生活、祭り事とのかかわりを的確な表現でまとめられ、簡潔に発表できる。	最も関心のある身近な水産物や海及び水産食品や祭り事を例に挙げて、調べ方、まとめ方、発表の仕方についてアドバイスする。
エ 知 識 ・ 理 解	水産業を中心に、海の探究の歴史や新しい海の利用方法に関する基礎的な知識を身に付け、海が人間の生活に及ぼす影響や役割を理解している。 日本の魚食文化や精神文化に関する基礎的な知識を身に付け、海が国民生活に果たしている役割を理解している。	水産業や海の探究の歴史について漁具や漁法の変遷及び船や観測機器の進歩と関連付けて、海が人間の生活に及ぼす影響や役割を理解している。 日本の魚食文化や精神文化について身近な食生活や祭り事と関連づけて、海が国民生活に果たしている役割を理解している。	ペーパーテストの不正解などところについて、教科書、ノートなどを再度熟読させた後、再テストを行い知識・理解の定着を図る。 ペーパーテストにより、知識・理解度が不十分なところを確認し、放課後個別の課外学習により補習を行う。

5 観点別評価の総括

観点別評価は、評価規準に基づき授業時間の評価場面において、適切な観点及び評価方法により行う。観点別評価は授業時間ごとに4観点すべてについて行わなければならないというのではなく、単元における各観点のバランスや、特に重点化する観点や評価方法を考えながら実施することが基本となる。

本事例では示さなかったが、観点別評価を行う際に、評価の観点間や評価方法ごとに重み付けをすることも考えられる。この場合、それぞれの内容のまとめりごとにおける、観点の重みの違いや、評価方法の重みの違いなどに応じて、その評価結果に対する重み付けを行うことなどが考えられる。

評価に関する事例：単元〔海と生活〕(7時間)

- (1) 下記表中における評価(a, b, c)は、各観点の評価規準に対して、評価方法ごとにまとめたものである。一つの評価規準に対して複数の評価方法を実施した場合には、評価規準ごとにそれぞれの評価を統合し、評価規準ごとの評価を行っている。その際の評価の組み合わせについては、(2)に準ずる。
(a: 十分満足できると判断されるもの b: おおむね満足できると判断されるもの
c: 努力を要すると判断されるもの)
- (2) 単元の観点別評価は、評価規準ごとの評価を集計して行う。評価が二つの場合は、[a・a]が[A], [c・c]が[C], それ以外は[B]とした。三つ以上ある場合は、[a・c]の組み合わせを[b・b]とし、残りの[a]の数が半数以上の場合は[A], [c]の数が半数以上の場合は[C]とし、それ以外は[B]とした。(下表に集計の仕方について例示した)
- (3) 「関心・意欲・態度」の観察法は、生徒の課題への関心や授業への参加意欲や態度を教師の観察により評価しようとするもので、主な着眼点は以下のものである。
教師やクラスメートのお話を理解しようとして聴く態度。
自らの疑問を見つけ出し、考え、解決しようとする意欲や態度。
積極的に課題や演習に取り組もうとする態度。
進んで知ろうとしたり発表をしたりしようとする意欲や態度。
また、自己評価のまとめシートについては、生徒の自己評価をそのまま表に記入するのではなく、生徒の自己評価を基に教師の判断を加えた結果を記入する。
- (4) 「思考・判断」の質疑応答やレポートは、課題に対する調査、分析、思考の組み立て、判断、感想、意見などの思考面を評価する。
- (5) 「技能・表現」のワークシートやレポートは、発表の仕方の他に論旨や文章表現力を評価する。
- (6) 観察による評価は、授業時間中に行なうものであるから、評価に値することを認識した時点で、教務手帳等にそのことを記入し、それらを根拠として評価する。

出席番号	生徒氏名	関心・意欲・態度									思考・判断			技能・表現			知識・理解			
		ア			ア			ア	ア	評価	イ	イ	評価	ウ	ウ	評価	エ	エ	評価	
		ワークシート	観察	まとめシート	ワークシート	観察	まとめシート													ワークシート
1		a	a	b	a	a	a	a	a	A	a	a	A	a	b	b	B	a	a	A
2		a	b	b	b	b	b	b	b	B	a	b	B	b	b	b	B	c	b	B
3		a	b	c	b	a	c	b	b	B	a	c	B	b	c	b	B	c	b	B
4		a	c	c	c	c	c	b	c	B	b	b	B	c	c	c	C	b	a	B
5		b	b	c	b	b	c	b	b	B	b	c	B	b	c	b	B	a	a	A
6		b	c	c	c	c	c	c	c	C	c	c	C	c	c	c	C	c	c	C

この他にも、単元(題材)における観点別評価の総括については様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれる。

参考資料1 ワークシート< 1時間目 アの ,ウの >

ワークシート 水産基礎『海と生活』

1年 科 番 氏名 _____

- 1 「水産」という用語から、あなたがイメージすることを書いてみよう。
- 2 発表し合った「水産」という用語のイメージを、海、水産物、船及びその他に分類してみよう。

海

水産物

船

その他

参考資料3 まとめシート < 7時間目 アの >

まとめシート 水産基礎『海と生活』

1年 科 _____ 番 氏名 _____

5段階の自己評価について

5：優秀である 4：良好である 3：おおむね満足できる 2：不十分である 1：著しく不十分である

自己チェック項目

1 関心・意欲・態度 (この単元の項目で、関心をもったことを記入してください。)

(1)人間と海

(2)海と文化

・予習をして授業に臨みましたか。	5	・	4	・	3	・	2	・	1
・理解できないところは質問しましたか。	5	・	4	・	3	・	2	・	1
・授業に関心をもって主体的に取り組めましたか。	5	・	4	・	3	・	2	・	1

2 思考・判断

・授業や課題の内容について調べ、理解していますか。	5	・	4	・	3	・	2	・	1
・色々な方法で調べましたか。	5	・	4	・	3	・	2	・	1
・思考力を生かして色々な解決方法を試みましたか。	5	・	4	・	3	・	2	・	1

3 技能・表現

・自分なりの工夫をしてまとめてありますか。	5	・	4	・	3	・	2	・	1
・理解しにくい内容については、自ら調べ工夫してまとめましたか。	5	・	4	・	3	・	2	・	1
・わかりやすく発表できましたか。	5	・	4	・	3	・	2	・	1

4 知識・理解

・授業の内容を理解できましたか。	5	・	4	・	3	・	2	・	1
・理解できなかったことについて、記述してください。									

(1)人間と海

(2)海と文化

自己評価における、あなたの総合評価をしてください。 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

・授業あるいは課題学習(レポート)からあなた自身が得られたと思うことを書いてください。